

川崎ハイキングクラブ入会のご案内

私たちは安全で楽しい登山をめざしています



川崎ハイキングクラブ（KHC）は1977年7月に、「いつでも、どこでも、誰でも参加できる計画を持ち、美しい自然をより多くの人達に知らせると同時に会員相互の交流を行い、親睦を深める」「幅広いハイキング愛好者の要求に応えられるよう、また安全性の面からも登山の基礎技術を身につける」ことを目的に創立され、2017年で40年を迎えます。創立時の会員は20名ほどでした。現在の会員は119名（2016年9月現在）です。初心者からベテランまで幅広い層の人たちが、ハイキングからアルプス縦走まで、さまざまな形態で山に親しんでいます。また、協力し合いながら技術の向上にも努めています。

KHCは、会員が納める会費（入会金1000円、会費年12000円）で運営されています。会費は連盟費の支払いや事務所維持、備品購入、会報誌「りんどう」発行、初級登山学校参加費補助などに当てられています。

KHCは安全で楽しい登山を第一に活動しています。

登山はいまや国民的スポーツです

かつて登山は一部の人が楽しむものとされてきました。しかしいまや、若いも若きも、男性も女性も、幅広い人たちが山に親しみ、山を楽しんでいます。2016年から8月11日が「山の日」として祝日になりました。登山は国民的スポーツです。

また健康志向の高まりに伴い、登山にも「健康」「ダイエット」「老化防止」などの付加価値が求められるようになってきました。

私たちはこの状況を、とても好ましいものと受け止めています。



危険性を理解したうえで楽しむ

反面、山での遭難事故は増え続けています。2015年の山での遭難事故は、発生件数2508件、遭難者3043人、死者・行方不明者335人でいずれも過去最悪記録を更新しました。増加傾向に歯止めがかかっていません。40歳以上の遭難者は全遭難者の76.7%、60歳以上は51.4%。単独登山（「山菜・茸採り」「観光」含む）における死者・行方不明者は複数（2人以上）登山比較すると約2.3倍となっています。警察庁は「山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因」と分析しています。登山は危険性を孕んだスポーツでもあるのです。

私たちは、登山がそうした性格のスポーツであることを理解したうえで登山を楽しんでいただけるよう、お手伝いをしたいと考えています。

労山は救助・捜索のための基金を設けています

KHCは全国的な登山者団体のひとつである日本勤労者山岳連盟（通称「労山」）に加盟しています。労山は遭難などの万一の場合に備え、捜索費用——民間へりは1回100万円が相場といわれています。民間人救助隊員には日当の支払いが発生します——などの経費負担が少しでも軽減できるよう、会員の拠出で「新特別基金」を設けています。1口1000円でいつでも加入でき、加入申込書が受理された日から交付対象になります。一般の生命保険では救助・捜索費用はカバーされません。

5口5000円の申し込みの場合

救助・捜索費用は

1年目 150万円（金額の300倍）

2年目 155万円（金額の310倍）

3年目 160万円（金額の320倍）

以後1年ごとに10倍加算され、11年目以降は200万円（金額の400倍）

死亡・行方不明は100万円（金額の200倍）

入院・通院の場合も交付されます。

注意：無届山行などにより交付されない場合もあります。



KHCはこんな活動をしています

会員の山に対するアプローチの仕方はさまざまです。そこで、好みがあう会員同士がグループをつくり、そのグループで自主的に山行計画を企画し活動しています。現在、8グループが活動しています。

◎縦走グループ

山小屋を利用しない、テント泊を基本にした縦走を行っています。ある程度の荷物を背負える体力を必要とする、KHCではもっともハードなグループです。

◎中ハイクグループ

歩行5～6時間の日帰り山行を中心に活動しています。山小屋泊の山行も行っています。

◎軽ハイクグループ

4時間前後の近場の山行が中心です。3月の梅見山行、4月の桜見山行を定例化しています。年1回、夏に初心者向け1泊山行を実施しています。

◎平日グループ

平日の山行を基本に、月1回変化に富んだ山行を行っています。バスを利用した1泊山行を年数回実施しています。

◎ミニハイクグループ

月1回初級の山行を実施しています。無理のない余裕をもった山小屋泊山行も夏・秋に行います。

◎四季グループ

縦走や日帰り山行が中心です。「自分で計画していく山」をめざしています。

◎花山歩（はなさんぽ）グループ

「自分なりの登山を楽しみたい」を目的に、歩行3～4時間で、温泉や観光をかねた山行を行っています。

◎里山ウォッチンググループ

里山歩きを中心に、自然に親しむ山行や鳥・植物の観察会を企画しています。学習にも力を入れています。

会としては月1回（原則第1日曜日）例会山行を行っていますが、日常的な活動は各グループにゆだねられています。グループに入る入らないは会員の自由で、必ずどこかのグループに入らなければならないことにはなっていません。グループ間の異動も自由です。ただ会としては、会員同士の親睦を図り交流を深めていただきたいとの観点から、グループに入ることを推奨しています。

また、各グループが企画した山行には、そのグループに所属していなくても、だれでも参加することができます。毎月紹介されるグループ企画のなかに参加したいものがあれば、申し込むだけで参加できます。

会員が集う「室内例会」は月1回（原則第4木曜日夜）開催しています。この場で会報誌「りんどう」が配布され（欠席者にはメール便で宅配）、「りんどう」を基に、実施された山行の報告や今後予定されている企画の紹介、専門部・運営委員会からの報告などがなされます。またミニ学習会の勉強会も行っています。最新の情報を得る機会になっています。



丹沢での登山道整備

KHCはこのように運営されています

◎総会

年1回（原則6月最終日曜日午後）に開かれ、1年間の活動の報告や今後1年間の取り組みなどが話し合われます。決算・予算の承認も行われます。会を1年間運営する運営委員も総会で選出されます。

◎運営委員会

月1回（原則第2水曜日）、総会で選出された運営委員が集まり、つどの議題を話し合うための運営委員会が開かれます。運営委員会は総会から次期総会までの1年間、会の活動全般に責任をもちます。

◎専門部

会の活動を分担し、また効率的運営を図るため、専門部を置いています。

組織部：入退会を取扱い、会の状況を日常的に把握します。連絡網の整備もしています。入会問い合わせの窓口にもなっています。

広報部：会報誌「りんどう」を発行しています。ホームページや会員交流ネットワークも担当しています。

教育遭対部：教育学習を担当しています。計画書・報告書の書き方などの机上学習のほか、地図読みを学ぶオリエンテーリングや山小屋未経験者向けの山小屋体験山行、アイゼン体験などの実践的な教育学習も行っています。

自然保護部：自然保護マナーの普及に取り組んでいます。清掃登山への参加も呼びかけています。

財政部：会費の徴収を含め、会計全般を管理しています。

山行部：計画書や報告書の管理を含め、会で行われるすべての山行を管理しています。提出された計画に問題点があれば計画の見直しを含め、適切なアドバイスをします。



川崎ハイキングクラブ(KHC) 〒211-0061 川崎市中原区小杉町1-542 増山荘
連絡先: 山口090-2460-6485・守口090-7210-1459